The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	社会階層と社会的ネットワーク : 地位の非一貫性と社会移動の効果
Author(s)	菅野, 剛
Citation	年報人間科学. 1998, 19, p. 101-113
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/12837
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

社会階層と社会的ネットワーク

——地位の非一貫性と社会移動の効果——

菅野　剛

〈要旨〉

本研究は、一九九五年ＳＳＭデータを用いて、社会階層の観点から、人々の社会的ネットワークを研究する。

その際、ネットワークの特徴の二側面を取り上げる。それらは、ネットワークに有力な社会的勢力層を含んでいる度合い（＝勢力ネットワーク）と、様々な社会的属性の他者を幅広くネットワークに含んでいる度合い（＝ネットワーク多様性）である。

まず第一に、社会階層とネットワークの関連を探る。アメリカの先行研究においては、社会階層ごとに人々のネットワークのあり方が異なっていることが指摘されてきた。特に、社会階層において上層であるほど、ネットワークが多様であることが指摘されてきた。本研究では、日本においても、学歴、職業威信、世帯収入などの社会階層の基本的な変数が、ネットワークのあり方に影響を及ぼしていることを分析で確かめた。

第二に、地位の非一貫性がネットワークに対して及ぼす影響を調べる。地位の非一貫性は、勢力ネットワークに対しては効果を持たないが、ネットワーク多様性に対しては、有意な正の効果を持っていることが分析で明らかになった。

第三に、社会移動がネットワークに対して及ぼす影響を調べる。世代間移動は、様々な意味で本人の生活空間に変化を与える。本人の社会階層的地位とは別に、親の社会階層が勢力ネットワークに対して有意な効果を持っていることを明らかにした。

キーワード

社会階層
地位の非一貫性
世代間移動
勢力ネットワーク
ネットワーク多様性

1. 本研究の目的

本研究では、重要な社会学的研究対象である社会的ネットワークについて、階層論的な視点から研究を行う。具体的には、（1）社会階層、（2）地位の非一貫性、（3）社会移動、の三つを考慮し、人々の社会的ネットワークのあり方について、一九九五年ＳＳＭデータを用いて分析する。

2. 社会的ネットワークの測定

階層論においては、社会的ネットワークが社会的資源として作用する側面が注目されてきた。[1]

まず、社会的上層での閉鎖的な交際が、その集団内部での社会的資源を保持する側面がある。これは、コネやツテといった形で、お互いの利益を保証しあい、循環的・連鎖的に集団内部でのメリットを維持することにつながる。

他方で、様々な他者との結びつきを伴う開放的なネットワークが社会的資源として効力を発揮する側面がある。協力行為や情報の交流を頻繁に行い、自らにないものを取り入れ、他者にないものを与えるという交渉行為によって、何らかのメリットを得ようとすることにつながる。

つまり、ネットワークという視点から見た社会階層化現象には、（1）勢力層とつきあうこと、（2）広くつきあうこと、の二つの戦略が存在する。このようなネットワークの特徴を分析するために、次の二つの指標を構築する。

2・1 勢力ネットワーク

階層的に上層の者は、社会的に勢力を持っている。[2] たとえば、経営者、管理職、専門職などの社会的勢力層は、（1）圧力団体として政治的影響力を行使し、（2）日々の仕事の遂行において他者を動かす力を持ち、（3）部下の昇進を左右する決定権を有している。このため、勢力層は社会階層において重要な位置を占めている。そこで、これらと関係を持つ度合いを「勢力ネットワーク」という指標で測定する。

勢力層と関わりを持つことは、社会的上昇移動において重要である。弱い紐帯の強さ命題は、自分の階層とは離れた上層と、弱くとも構わないから関係を持っているかということに焦点をあてた。他方、強い密接な関係であっても上層との関係は上昇移動に有効である。

たとえば、民間企業の女性社員採用や様々な組織における人員選考において、コネやツテと言ったインフォーマルな関係的資源が重要であることは誰もが知っている。また、フォーマルな資格試験をパスする必要がある職業にしても、資格取得後にはインフォーマルな関係が重要となるのである。

2・2　ネットワーク多様性

ネットワークに含む相手の社会的属性が多様である度合いは、人によって大分異なっている。本人と同じ社会的地位の他者ばかりと接する人がいる一方で、職業威信の高い他者とも低い他者とも関わる人がいる。そこで、様々な職業威信の他者と広く交際している度合いを、「ネットワーク多様性」という指標で測定する。[3]

自分と似たような階層の他者と同質的な交際をしている人は、情報獲得において類似した情報を得ることになる。他方、自分と離れた階層の他者とも幅広く接している人は、様々な情報を得ることになる。また、ある領域において既に自明である情報であっても、他の領域に持ち込まれる際に重要な意義をもつことがある。さらに、異なった視点から物事を見直す、世の中の流れを知るといった形で、様々な他者との交際は、情報という形で直接・間接的に役立つといえる。

また、何か新しい創造的なことを行う際に、異質なものとの遭遇が重要であることはしばしば言及されている。たとえば、起業の際にも様々な人から多様な援助を得ることができる。あるいは、自分の社会的資源を他者と分かちあうことで、より広い利用可能性を獲得することもできる。このように、様々な他者との交際は、重要な社会的資源となる。

3．ネットワークの規定因

3・1　社会階層がネットワークに及ぼす効果

社会階層ごとに、交際のありかたが異なっているということは、従来から指摘されてきた。[4] たとえば、アメリカにおいては、学歴、職業威信や世帯収入などの社会階層が高い者ほどネットワークが多様であることが分析で示されている。[5] 日本においても、社会階層とネットワークのあり方の関連が分析で示されている。[6] ここでは、日本全国的な、確率標本データを用いて分析を行い、これらの知見をさらに確かめることになる。

3・2　地位の非一貫性がネットワークに及ぼす効果

社会階層的な要因の一つとして、地位の非一貫性がある。[7] 特に、本人の地位の非一貫性は、ネットワークのあり方に影響を与えることが予想される。

地位が非一貫であることは、本人の社会的帰属が曖昧であることを意味するため、整合性を欠くネガティブな効果をメンタルヘルスに対して持つことが指摘されてきた。それでは、地位の非一貫性が広く見られるようになってきた現代社会においては、帰属が曖昧であることから生じる居心地のわるさと社交生活に対するネガティブな効果というものは、依然として存在しているのだろうか？

逆に、地位の非一貫性は、個々人の階層への所属があいまいであ

ることを表すので、異なる階層との交際を促進する可能性も考えられる。つまり、ネットワーク多様性を高めることにつながると予想することもできる。

また、地位が非一貫である者は、自分に足りないものを獲得しようとするために、勢力ネットワークを広げようとするかもしれない。すなわち、自分の地位において最も高いものに要求水準を高め、他の低い地位を切り捨てるような心理的メカニズムが働くということも考えられる。

3・3　社会移動がネットワークに及ぼす効果

社会移動は、本人の出身階層から到達階層へと生活空間の変化をもたらす。これに伴い、日々に接触する具体的な他者も変わる。これによってネットワークも大きく影響を受けるだろう。ここでは、世代間移動の持つ効果について分析する。

親の世代の関係的資源が子の世代にひきつがれたり、あるいは、親の社交生活の過ごし方が子にうけつがれるのであれば、本人の現所属階層が同じであっても、世代間上昇移動した者と以前から上層に位置していた者とでは、勢力ネットワークに大きな違いが見られることだろう。

また、世代間移動をした者の方が、移動をしなかった者に比べて、幅広い社会空間を動き回ることによって、ネットワーク多様性が高いということも考えられる。

4．データと変数の概要

4・1　データの概要

一九九五年SSM調査B票男性を分析対象とする。この調査は、一九九四年一二月三一日の時点で満二〇歳～六九歳の男女を対象に、一九九五年一〇月下旬～一一月下旬にかけて実施された（表1）。

本研究では、男性に絞って、分析を行うことにする。

表1：1995年SSM調査　本調査　B票

	男性	女性	全体
サンプル数	2016	2016	4032
有効回収数	1242	1462	2704
有効回収率	61.9%	72.5%	67.1%

4・2　説明変数

分析には、まず、基本的な変数（居住地人口、本人年齢）、それから、従来から一般的に用いられてきた社会階層的変数（本人学歴、雇用規模、職業威信、世帯収入、金融資産）、さらに、新たな分析変数として、地位の非一貫性と世代間移動を用いる（表2）。

4・3　被説明変数

質問紙においては、特定の九つの職種それぞれに対して、友人か親戚としてつきあいがあるかどうかを尋ねている。個々のつきあいの有無に対して分析を施すこともできるが、ここでは、個人の社会

表２：説明変数

【基本的変数】	
居住地人口	人口（単位千人、『全国市町村要覧 平成７年版』）
年齢	本人の満年齢
【社会階層的変数】	
教育年数	本人の最終学歴の年数
職業威信	本人現職業の職業威信スコア[2]
世帯収入	年間世帯収入
雇用規模	現在の雇用先の規模
金融資産	家族全体の金融資産額
【地位の非一貫性】	
地位の非一貫性	職業威信、教育年数、世帯収入のそれぞれのパーセンタイル値の差の二乗和の平方根[3]
【社会移動】	
世代間Ｂ滞在	父職ブルーカラー（農業含む）→本人職ブルーカラー（農業含む）ならば１、それ以外は０のダミー変数
世代間下降移動	父職ホワイトカラー→本人職ブルーカラー（農業含む）ならば１、それ以外は０のダミー変数
世代間Ｗ滞在	父職ホワイトカラー→本人職ホワイトカラーならば１、それ以外は０のダミー変数

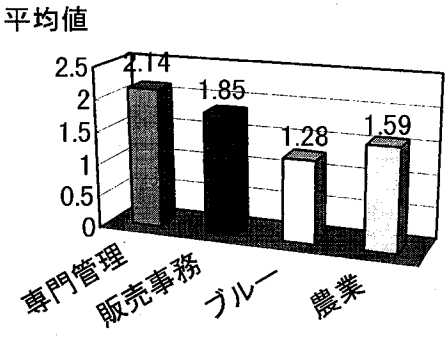
的ネットワークの全体的な特性を把握したい。そこで、これらの回答をもとに、勢力ネットワークと、ネットワーク多様性という二つの指標を構築することにする。

４・３・１　勢力ネットワークの測定

質問紙においてつきあいを尋ねた四つの職種（地方・国会議員、部課長以上の役人、社長や役員、専門職）のうち、交際のある職種数を求め、これを勢力ネットワークの指標として用いることにする。

専門職・管理職、事務職・販売職、ブルーカラー（熟練・半熟練・非熟練労働者）、農業従事者というおおざっぱな四分類ごとにみた、勢力ネットワークのスコアは、図１の通りである。

図１：勢力ネットワーク



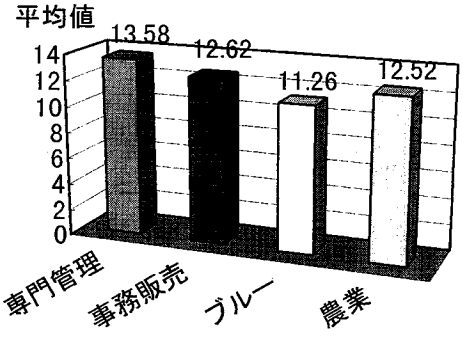
4・3・2　ネットワーク多様性の測定

まず、質問紙においてつきあいを尋ねた九つの職種（地方・国会議員、部課長以上の役人、社長や役員、サラリーマン・OL、専門職、小売り・飲食店主、工場土木建築労働者・運転手、農業・漁業従事者、同業組合・労働組合役員）のうち、つきあいのある職種に対しておよその威信スコア[10]を割り振る。

そして、このネットワークの威信スコアの散らばりの度合いを捉えるために、これらにおける標準偏差を求める。これを、職業威信という側面におけるネットワーク多様性として用いることにする。

専門職・管理職、事務職・販売職、ブルーカラー（熟練・半熟練・非熟練労働者）、農業従事者というおおざっぱな四分類ごとにみた、ネットワーク多様性のスコアは、図2の通りである。

図2：ネットワーク多様性



5．分析

5・1　勢力ネットワークの重回帰分析

勢力ネットワークがどのように規定されているのか、重回帰分析を行った結果が表3である。

居住地人口

居住地人口は、勢力ネットワークに対して有意な効果を持っていない。人口規模の増大が様々な他者との接触を増大させる、あるいは、小規模な都市ほど勢力層と接触する機会を持ちうる、ということも考えられるが、今回の分析では支持されなかった。

年齢

本人の年齢が高くなるほど、勢力ネットワークが増大している。この理由として、

（1）本人の年齢が高くなり、組織において上層の位置を占めるようになると、内部組織や他の組織の上層との交際が増えてくる。

（2）職業には年齢分布がある。例えば、若年層では管理職になりにくい。以前からの交際相手がいたとして、その年齢がある程度以上にならないと勢力層とはならない。つまり、交際相手は同一人物で変わらないが、相手の職業が移り変わっていくことを表している。

などが考えられる。

表3：勢力ネットワークの重回帰分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9
切片	1.661***	−.029	−2.146***	−2.246***	−1.694***	−1.829***	−1.824***	−2.125***	−.855
	(4.884)	(−.073)	(−4.760)	(−5.104)	(−3.819)	(−4.068)	(−4.051)	(−4.425)	(−1.457)
居住地人口	.009	.028	−.022	−.022	−.021	−.018	−.018	−.013	−.027
	(.326)	(1.052)	(−.828)	(−.874)	(−.815)	(−.720)	(−.697)	(−.505)	(−1.046)
満年齢		.031***	.044***	.037**	.030**	.029**	.029**	.029**	.028**
		(7.490)	(10.282)	(8.504)	(6.887)	(6.653)	(6.488)	(6.572)	(6.406)
学歴年数			.174***	.136***	.147***	.133***	.132***	.131***	.098***
			(8.587)	(6.552)	(7.186)	(6.085)	(6.022)	(5.983)	(4.209)
世帯収入				.098***	.110***	.102***	.100***	.099***	.095***
				(6.023)	(6.833)	(6.171)	(5.440)	(5.394)	(5.226)
雇用規模					−.098***	−.102***	−.101***	−.099***	−.102***
					(−5.346)	(−5.529)	(−5.456)	(−5.365)	(−5.490)
職業威信						.009*	.009*	.010*	−.001
						(1.744)	(1.731)	(1.938)	(−.145)
金融資産							.008	.006	.004
							(.300)	(.244)	(.166)
非一貫性								.003*	.002
								(1.782)	(1.349)
世代間B滞在									−.289**
									(−1.994)
世代間下降									−.314*
									(−1.717)
世代間W滞在									.348***
									(2.673)
修正決定係数	−.001	.074	.163	.205	.236	.238	.237	.239	.256

（上段は偏回帰係数、下段はt値。＊：10%有意、＊＊：5%有意、＊＊＊：1%有意。）　（N＝683）

学歴

学歴が高いほど、勢力ネットワークが増大している。この理由として、

（1）高学歴者は、中学校、高校、大学などを通してネットワークを形成し、結果的に社会的上層の他者と知り合えるが、他方、低学歴者は、高等教育機関に所属する機会がないために高学歴者と知り合う機会が比較的少なくなる。このため、高学歴者は勢力ネットワークを広げやすくなる。

（2）教養としての学歴資本が勢力ネットワークを増大させる。

などが考えられる。

世帯収入

世帯収入が多くなるほど、勢力ネットワークが増大している。この理由として、ライフスタイルがつりあわないとつきあわないという社会的な障壁をクリアするためには、上層との交際にはある程度の経済的基盤が必要となる、ということなどが考えられる。

雇用規模

雇用先の規模が大きくなるほど、勢力ネットワークが減少している。中小企業であるほど、社長などと気軽に関係を持つことができることなどが理由として考えられる。

職業威信

モデル6〜8においては、職業威信が高い者ほど、勢力ネットワー

クが増大していることが分かる。[11]

金融資産

モデル7～9のいずれにおいても、金融資産は勢力ネットワークに対して有意な効果を持たなかった。

地位の非一貫性

モデル8では、勢力ネットワークに対して、地位の非一貫性は有意な効果を持っているが、世代間移動の効果を考慮したモデル9では、効果を失ってしまう。

地位の非一貫性は、様々な階層との交際を促進する、あるいは、非一貫性の高い人ほど、足りないものを取り戻そうとするために、勢力ネットワークを増やそうとする、などの可能性が考えられるが、この仮説は十分には支持されなかった。

世代間移動

モデル9においては、ブルーカラーからホワイトカラーへの世代間上昇移動を基準にして、勢力ネットワークに対する世代間移動の効果を見ている。

まず、世代間ブルーカラー滞在は、勢力ネットワークを減少させている。そして、ホワイトカラーからブルーカラーへの世代間下降移動は、勢力ネットワークを減少させることが分かる。

また、世代間ホワイトカラー滞在は、勢力ネットワークを増大させることが分かる。つまり、本人がホワイトカラーである場合に、親もホワイトカラーである方が勢力ネットワークが進展しやすい。

以上から、まず、ホワイトカラーはブルーカラーよりも勢力ネットワークが顕著であることが分かった。これは、人と接することの多いホワイトカラーの職業条件が大きな理由であると思われる。[12] さらに、ホワイトカラーでの世代間滞在は、勢力ネットワークを増大させることが分かった。

このように、親の世代において恵まれ、本人においても学歴的・経済的資源に恵まれている者は、関係的資源にも恵まれる傾向がある。この意味で、社会階層の空間には、学歴的、経済的、関係的資源に恵まれた層が存在する一方、どれも恵まれない層が存在していると考えられる。

5・2　ネットワーク多様性

次に、ネットワーク多様性がどのように規定されているのか、重回帰分析を行った結果が表4である。

居住地人口

居住地人口は、ネットワーク多様性に対して有意な効果を持っていない。人口規模の増大が異質な他者との接触を増大させる、あるいは、小規模なコミュニティほど、生活での時間的・空間的な共有の程度のために様々な他者と密接な関係を持つ、ということも考えられるが、今回の分析では支持されなかった。

表4：ネットワーク多様性の重回帰分析

	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5	モデル6	モデル7	モデル8	モデル9
切片	13.098***	10.735***	5.710***	5.458***	6.929***	6.877***	6.841***	4.991***	7.277***
	(11.386)	(7.722)	(3.518)	(3.408)	(4.254)	(4.154)	(4.128)	(2.833)	(3.339)
居住地人口	−.058	−.031	−.151	−.153	−.147	−.146	−.150	−.121	−.145
	(−.617)	(−.328)	(−1.589)	(−1.632)	(−1.587)	(−1.574)	(−1.614)	(−1.300)	(−1.538)
満年齢		.044***	.073***	.053***	.036***	.036***	.038***	.040***	.038***
		(2.991)	(4.767)	(3.412)	(2.261)	(2.225)	(2.298)	(2.444)	(2.324)
学歴年数			.413***	.309***	.339***	.334***	.339***	.333***	.272***
			(5.665)	(4.085)	(4.508)	(4.149)	(4.188)	(4.137)	(3.166)
世帯収入				.266***	.298***	.295***	.313***	.306***	.300***
				(4.498)	(5.041)	(4.817)	(4.606)	(4.531)	(4.442)
雇用規模					−.263***	−.265***	−.270***	−.259***	−.260***
					(−3.918)	(−3.906)	(−3.947)	(−3.817)	(−3.800)
職業威信						.003	.004	.011	−.010
						(0.178)	(.196)	(.570)	(−.429)
金融資産							−.058	−.066	−.072
							(.616)	(−.705)	(−.761)
非一貫性								.016***	.015***
								(2.969)	(2.742)
世代間B滞在									−.453
									(−.845)
世代間下降									−.748
									(−1.106)
世代間W滞在									.664
									(1.375)
修正決定係数	−.001	.011	.054	.080	.099	.098	.097	.108	.110

（上段は偏回帰係数、下段はt値。＊：10%有意、＊＊：5%有意、＊＊＊：1%有意。）　（N＝681）

年齢

本人の年齢が高くなるほど、ネットワーク多様性が増大している。この理由として、生きている限り少しずつ知り合いが増えていくということや、職業の年齢分布の効果が考えられる。例えば、若年層では管理職になりにくい。以前からの交際相手がいたとして、その年齢がある程度以上にならないと社会的に上層とはならない。このことが、若年層においてネットワークの多様性を低めることにつながる。

学歴

学歴が高いほど、ネットワーク多様性が増大している。この理由として、

（1）学歴が自立性や知的柔軟性を高め、異質な社会に属する他者とのコミュニケーションを可能にするためにネットワーク多様性が増大する。

（2）高学歴者は、中学校、高校、大学などを通してネットワークを形成し、結果的に様々な学歴の他者と知り合うが、他方、低学歴者は、高等教育機関に所属する機会がないために高学歴者と知り合う機会が比較的少なくなる。このため、高学歴者の交際相手は社会的に上層であったり、下層であったりするが、低学歴者の交際相手は同質的な下層が多くなる。

などが考えられる。

世帯収入

世帯収入が多くなるほど、ネットワークが多様になる。この理由として、社交生活は、交際費という形で様々な出費を伴うので、これを支える基盤として経済的資本が必要であることなどが考えられる。

雇用規模

雇用先の規模が大きくなるほど、ネットワーク多様性が減少している。雇用規模が大きいほど、組織の中の内部労働市場が確立し、職場における社会的に同質的な同僚との仕事遂行が顕著になるためと考えられる。

職業威信

モデル6～9を通して、職業威信は、ネットワーク多様性に対して有意な効果を有していないことが分かる。

地位の非一貫性

モデル8より、地位の非一貫性が、ネットワーク多様性を高めることが分かる。

地位が非一貫であることは、ある意味では、様々な階層に重複的に所属していることになる。このため、本人の地位が非一貫的であることは、より幅広く他者との関係を構築する可能性を提供し、様々な階層の他者との交際を容易にする橋渡しのような作用を担っていると考えられる。

世代間移動

モデル9においては、ブルーカラーからホワイトカラーへの世代間上昇移動を基準にし、ダミー変数を用いて、ネットワーク多様性に対する世代間移動の効果を見ている。

ネットワーク多様性に対しては、世代間移動は効果を持っていないことが分かる。世代間移動は生活空間の変化を伴うので、出身階層と到達階層の両方の関係的資源にアクセスできるのではないかとも考えられるが、今回の分析では、支持されなかった。

6. 結論

本研究では、一九九五年SSMデータを用いて、社会階層と人々の社会的ネットワークのあり方との関連を分析した。

（1）社会階層において上層であるほど、勢力ネットワークが顕著であり、ネットワークの多様性が高くなることを、日本全国的な確率標本データに対する分析において見出した。

（2）地位の非一貫性は、ネットワークの多様性を増大させることが明らかになった。

（3）ホワイトカラーにおいては、親がブルーカラーである者に比べて、二世代に渡ってホワイトカラーである者の方が、勢力ネットワークが顕著であることが明らかになった。

このように、学歴、世帯収入や職業威信などの、社会階層変数のみならず、地位の非一貫性や社会移動という要因も、社会的ネットワークの特性に対して重要な効果を持っていることが明らかになった。

※本研究の分析を行うにあたって、一九九五年SSM調査委員会の許可を頂きました。

注

(1) Granovetter, 1973; Granovetter, 1982; Lin *et al.*, 1981a; Lin *et al.*, 1981b.

(2) 今田・原、一九七九.

(3) Campbell *et al.*, 1986.

(4) Allan, 1977; Marsden, 1987; Allan, 1989; Moore, 1990.

(5) Campbell *et al.*, 1986; Huang and Tausig, 1990.

(6) 菅野、一九九四.

(7) Lenski, 1954; 今田・原、一九七九. 富永、一九九二. 白倉、一九九三.

(8) 職業威信スコアについては、一九七五年SSMのものを用いている。

(9) 地位の非一貫性のスコアを求める具体的な式は、以下のとおりである。

p_1 職業威信のパーセンタイル値、p_2 教育年数のパーセンタイル値 p_3 世帯収入のパーセンタイル値、p_4 金融資産のパーセンタイル値とすると、地位の非一貫性 x は、

$$x=[(p_1-p_2)^2+(p_1-p_3)^2+(p_1-p_4)^2+(p_2-p_3)^2+(p_2-p_4)^2+(p_3-p_4)^2]^{1/2}$$

(10) 割り振った職業威信スコアは、表5の通りである。なお、同業組合・労働組合役員については、指標から外しても、分析結果に変わりはなかった。

表5：交際相手の職業威信スコア

つきあいのある職業	割り振った威信スコア	おおよその威信スコアの求め方
地方議員・国会議員	75.8	(地方議員＋国会議員)／2
県や市町村に勤めている部課長以上の役人	70.5	管理的公務員
会社の社長や役員	73.3	会社役員
一般のサラリーマンやOL	51.6	一般事務員
医師・弁護士などの専門職の人	85	(医師＋弁護士)／2
小売り店主、飲食店主	48.9	(小売店主＋飲食店主)／2
工場労働者、運転手、土木・建築作業者	41.6	(自動車運転者＋大工＋現場監督,その他建設作業者)／3
農業や漁業をしている人	37.9	(農耕・養蚕作業者＋漁ろう作業者)／2
同業組合や労働組合の役員	70.5	その他の法人・団体の役員

（11） モデル9において職業威信は有意な効果を失うが、これは、世代間移動のダミー変数のためと考えられる。なお、モデル9において職業威信を除いても、分析結果にほとんど変化はない。

（12） 菅野、一九九四．菅野、一九九六．

参考文献

Allan,G. 1977. "Class Variation in Friendship Patterns." *British Journal of Sociology* 28: 389–393.

Allan,G. 1989. *Friendship: Developing a Sociological Perspective*. Harvester Wheatsheaf.（仲村祥一・細辻恵子訳、一九九三『友情の社会学』世界思想社）

Campbell,K.E., Marsden,P.V. and J.S.Hurlbert. 1986. "Social Resources and Socioeconomic Status." *Social Networks* 8: 97–117.

Granovetter,M.S. 1973. "The Strength of Weak Ties." *American Journal of Sociology* 78: 1360–1380.

Granovetter,M.S. 1982. "The Strength of Weak Ties: A Network Theory Revisited." Pp.105–130 in *Social Structure and Network Analysis*, edited by P.V.Marsden and N.Lin.

Huang,G. and M.Tausig. 1990. "Network Range in Personal Networks." *Social Networks* 12: 261–268.

今田高俊・原純輔、一九七九．「社会的地位の一貫性と非一貫性」、富永健一編『日本の階層構造』東京大学出版会: 161–197頁．

Lenski,G.E. 1954. "Status Crystallization: A Non-Vertical Dimension of Social Status." *American Sociological Review* 28: 219–229.

Lin,N., Vaughn,J.C. and W.M.Ensel. 1981a, "Social Resources and Occupational Status Attainment." *Social Forces* 59: 1163–1181.

Lin,N., Ensel,W.M. and J.C.Vaughn. 1981b. "Social Resources and Strength of Ties: Structural Factors in Occupational Status Attainment." *American Sociological Review* 46: 393–405.

Marsden,P.V. and N.Lin (Eds.). 1982. *Social Structure and Network Analysis*. Beverly Hills: Sage.

Marsden,P. 1987. "Core Discussion Networks of Americans." *American Sociological Review* 52: 122–131.

Moore,G. 1990. "Structural Determinants of Men's and Women's Personal Networks." *American Sociological Review* 55: 726–735.

白倉幸男、一九九三．「社会階層と自立および知的柔軟性」、直井優・盛山和夫・間々田孝夫編『日本社会の新潮流』東京大学出版会: 121–153頁．

菅野剛、一九九四．「社会階層と人々の交際形態」、白倉幸男編著『現代の社会階層と社会意識』65–86頁、社会移動研究会．

菅野剛、一九九六．『社会階層と友人ネットワークに関する計量社会学的研究』、大阪大学修士論文．

富永健一、一九九二．「敗後日本の社会階層とその変動　一九五五–一九八五年」、東京大学社会科学研究所編『現代日本社会　6　問題の諸相』東京大学出版会: 429–495頁．

Social Stratification and Network Characteristics

Tsuyoshi SUGANO

In this paper, we focus on the relationship between social stratification and social networks, using Social Stratification and Social Mobility survey data of the year 1995.

There are two aspects of network characteristics. One is influence network, which means one's network contains high status associates. Another is network diversity, which means one's network contains alters of variety of social status.

Using these two aspects of network characteristics, first, we focus on the well-known positive relationships between social stratification and social networks. Using representative data, regression analysis shows that age, education and family income have significant positive effect on influence network and network diversity.

Second, we hypothesized that status inconsistency is significantly important, by crossing class boundary. Multi-regression analysis shows status inconsistency has significant positive effect on network diversity.

Third, we hypothesized that social mobility have important effect on network characteristics, by inheritance of parents' social resource. Multi-regression analysis shows that controlling one's own social stratification, parent's social stratification has significant positive effect on influence network.

These findings clarified that social stratification is significantly important to network characteristics in many ways.

Key Words

social stratification
status inconsistency
social mobility
influence network
network diversity